

教育研究グループ「研究結果」報告書

報告日 令和2年2月17日

グループ名	立川市立立川第七中学校 校内研究委員会	フリガナ 代表者氏名	オオカンダ ヨシアキ 大神田 佳明
学校名 (代表者)	立川市立立川第七中学校	電話番号	042-531-0511
研究テーマ	「自分の考えをもち、表現できる生徒の育成」 ～主体的・対話的で深い学びを育む授業改善～		
研究期間	平成30年4月1日 から 令和2年3月31日 まで		
研究結果 の概要 ※詳細は別 紙により 報告	<p>本校では、平成28年度より2年間、知識や技能の伝達型授業から、学んだ知識や技能を活用して課題を解決する授業改善を組織的に進めた。生徒が考える時間を確保したり、生徒相互で話し合ったりする学習を通して、自分の考えを文章で表す、発表する、図やグラフで表すなど、多様な方法で表現できる生徒が見られるようになった。</p> <p>平成29年度からは、新学習指導要領の円滑な移行を踏まえて、資質・能力の柱でもある「思考力・判断力・表現力等」の育成を目指し。生徒がどのように学ぶかという学びの質を重視して、主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善に取り組んだ。これは、既習の知識を活用して考えたり、自分で問いを立て問題を解決したり、他の生徒との対話を通して自分の考えを深めたり広めたりしながら、生徒個々の学びを深められるように授業改善に取り組んだ。</p> <p>研究の仮説は、各教科等で、既習事項を生かして知識を相互に関連付けて考えさせ、考えを伝え合い交流する場を設定し、自分の考えを広めたり深めたりできれば、根拠や理由を示して、相手にわかりやすく表現できる生徒が育つだろうとした。</p> <p>研究の重点である授業改善のポイントは次の三点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 見通しと振り返りのある授業 単元（学習）の見通しをもたせ、粘り強く学習に取り組ませる。単元（学習）の後に、学びを振り返って次につなげる。 2 自分の考えをもたせる授業 既習事項（知識・技能）を活用し、答えが一つではない課題に対して、自分なりの仮説を立て、他者を納得させる説明ができる。 3 他者との協働により、自分の考えを広め、深める授業 自分と他者の意見や考えを比較したり、自分で気が付かないことを得ながら考えを広めたり、深めたりする。 <p>授業づくりを実践するために、「基礎研修」「研究授業」「授業実践」の三つの方法で研究を進めた。基礎研究では、講師を招聘して、各教科の特質に応じた「見方・考え方」、カリキュラム・マネジメント、指導と評価等について講師から学び研究に生かした。研究の成果としては、ペア学習や班学習において、生徒間での対話を生かしながら、根拠や理由を示して自分の考えを表現できるようになったこと、教科を通して学んだことを、他教科や生活の中で生かそうとする意欲や態度が醸成されたこと、さらに、主体的、対話的で深い学びを目指し、単元や題材等のまとまりの中で授業改善が図られるなど、本研究を通して目指す生徒の姿に迫ることができた。</p>		

研究主題

「自分の考えをもち、表現できる生徒の育成」 ～主体的・対話的で深い学びを育む授業改善～

研究仮説

各教科等で、既習事項を生かして知識を相互に関連付けて考えさせ、考えを伝え合い交流する場を設定し自分の考えを広げたり、深めたりできれば、根拠や理由を示して相手にわかりやすく表現できる生徒が育つだろう。

研究の重点 「主体的・対話的で深い学び」を育む授業改善

見通しと、確かな振り返りのある授業

⇒ 単元(学習)の見通しをもたせ、ねばり強く学習に取り組ませる。

単元(学習)の後に、学びを振り返

自分の考えをもたせる授業

⇒ 既習事項(知識・技能)を活用し、答えが一つではない課題に対して、自分なりの仮説を立て、他者を納得させ

他者との協働により、自分の考えを広め、深める授業

⇒ 自分と他者の意見や考えを比較したり、自分で気付かないことを得ながら、考えを広めたり、深めたりできる。

◆ 授業改善の視点 ◆

- 生徒に目指す資質・能力を育むために、「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善を進める。
- 各教科で行っている学習活動(言語活動、観察・実験、問題解決的な学習)の質を向上させる。
- 1単位時間の中で全てが実現されるものではなく、単元や題材などの内容のまとまりの中で実現を図る。
- 基礎・基本の知識・技能等、教えるべき内容を指導した上で、生徒の能動的・自発的な学びを重視した指導を行う。

研究の進め方は次の三つの方法で推進した。

1 基礎研究

講師の講話を通して、新学習指導要領や指導方法等について、基礎的基本的な事項を学び、授業改善の視点を確認した。

- (1) 各教科の特質に応じた「見方・考え方」・授業改善の視点「主体的・対話的で深い学び」
- (2) 育成を目指す資質・能力とカリキュラム・マネジメント
- (3) 目標に準拠した「評価」とその観点

2 研究授業

2年間で4教科の研究授業を行い、全員参加型の研究協議会と講師からの指導・助言をいただき、各教科の授業改善につなげた。

第1回 技術・家庭科(家庭分野) 第2回 音楽 第3回 社会 第4回 理科

3 授業実践

基礎研究や研究授業で学んだ指導方法や評価等を日々の授業で実践して、それぞれの教科の授業改善につなげ、研究の検証を行った。

【具体的な授業改善の取組】

新学習指導要領の柱の一つである、「主体的・対話的で深い学び」を育むために授業改善に取り組んだ。

【1】見通しと、確かな振り返りのある授業

- ◆主体的な学びを育むために 生徒が①見通しをもっている ②自分の学びの振り返りができることを重視

【見通し】 ●教師の指示を待っているだけでは、生徒の思考は活性化しない

○「今日は～について調べたい」「～について話し合いたい」という主体的な姿勢を育む。

⇒単元(授業)の目標(身に付けさせたい力)を明確にして見通しをもたせる

【振り返り】 単元(授業)の最後に、学びを振り返って、身に付けた力を確認して次の学びにつなげる <①毎時間の課題、②単元・毎時間の学びの振り返り>

○自分の考えを「書くこと」によって、深く考える熟考が生まれ、深い学びにつながる <ワークシート、自己評価、ノートなどを活用>

【振り返りシート】

自己評価カード	日 時	単 元	単 元 目 標	単 元 目 標 実 現 状
1			1. 課題を気付けられたか 2. 単元・毎時間の学びの振り返りができたか	○ ○ ○ ○
2			1. 課題を気付けられたか 2. 単元・毎時間の学びの振り返りができたか	○ ○ ○ ○
3			1. 課題を気付けられたか 2. 単元・毎時間の学びの振り返りができたか	○ ○ ○ ○
4			1. 課題を気付けられたか 2. 単元・毎時間の学びの振り返りができたか	○ ○ ○ ○
5			1. 課題を気付けられたか 2. 単元・毎時間の学びの振り返りができたか	○ ○ ○ ○
6			1. 課題を気付けられたか 2. 単元・毎時間の学びの振り返りができたか	○ ○ ○ ○
7			1. 課題を気付けられたか 2. 単元・毎時間の学びの振り返りができたか	○ ○ ○ ○
8			1. 課題を気付けられたか 2. 単元・毎時間の学びの振り返りができたか	○ ○ ○ ○
9			1. 課題を気付けられたか 2. 単元・毎時間の学びの振り返りができたか	○ ○ ○ ○
10			1. 課題を気付けられたか 2. 単元・毎時間の学びの振り返りができたか	○ ○ ○ ○

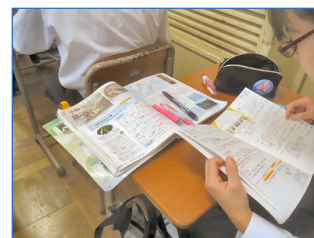
【2】自分の考えをもたせる授業

- ◆資質・能力の一つの柱「思考力・判断力・表現力等」の育成

【授業】教師が教える場面と生徒に思考・判断・表現させる場面を、効果的に設計

- ①既習の知識・技能を活用して、自分の考えをもたせる「問い」の工夫
- ②答えが一つではない課題に対して、自分なりの仮説(予想)を立て、他者をも納得させる説明ができる。
⇒予想は、既習の知識と、現在の解決すべき課題を結び付ける働きがある。
- ③自分の考えを、根拠や理由を明確にして説明する。

※生徒が、これまでの知識だけでは、説明できない場面を意図的につくり、生徒同士が力を合わせて課題を解決しようとする意欲や態度を育む。



【3】他者との協働により、自分の考えを深め、広める授業

- ◆自分と他者との意見や考えを比較したり、自分で気付かないことを得ながら、自分の考えを深めたり、広めたりする。

●対話的な学びを重視し、学びが深まらない傾向「活動あって学びなし」

○各教科特有の「見方・考え方」(各教科で活用される知識や考え方)を働かせることにより、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、問題を見いだして解決策を考えたりして深い学びにつなげる。

- ①生徒が互いの言葉を受け止め合い、対話しながら個人や集団の考えを深める。
- ②自分の考えを、他者に分かりやすく説明することで、表現力する力を高める。



【授業改善以外の取組】

【4】クリティカル・シンキング講座

◆第3学年で5時間 講師:プラムシステムズ株式会社

「クリティカル・シンキング」=根拠を明確にして、物事を評価すること

【目標】:正解のない問いに対して、自分の言おうとしていることが、論理的な考察に基づく答えなのか、もう一度あらゆる角度から見直してみる。

<授業の内容>

- ①自分自身を理解する・・・メタ認知(自己モニタリング)
- ②自分や他人の考えを分類・分析する・・・MICE(重複せず、全体に漏れがない)
- ③自分の考えを効果的に伝える・・・話のつくり方、話の仕方

※今回は「学校へのスマホの持ち込みは必要か」というテーマで討論した。



【5】朝の「とちの葉タイム」

◆毎週(火・水・木)の3回 10分間

◆目的 読解力・思考力・表現力・集中力を育む

【第1ステップ】(1学期)

資料を音読・視写し、語彙力を養う。

【第2・第3ステップ】(2・3学期)

「要旨をまとめる」「自分の考えをまとめる」

資料を時間内で要約したり、意見を書いたりすることにより、見通しをもって学習する態度や、資料と向き合い考えを深める学びにつなげる。



【6】新聞への「投稿チャレンジ」

◆目的 新聞のコラムに自分の考えを書いて投稿することを通して、考える力、自分の考えをまとめ文書で表現する力を育む。

◆内容 新聞各社(朝日、読売、毎日、産経、東京)に原稿をFAX送信する。

◆投稿数 平成15年度～令和元年7月現在1,283名の投稿が掲載されている。

※現3年生は入学以来137名の生徒が投稿して77名の生徒の投稿が新聞に掲載されている。



【7】「評価の改善」への取組

平成28年度より、「思考力・判断力・表現力等」の育成とともに、評価について研究に取り組んでいる。生徒の振り返り(レポート・考察・話し合い等)の言語活動から評価「パフォーマンス評価」(ルーブリック・ポートフォリオ)の活用

【評価の例】 ①到達度(目標準拠)で判定 ⇒ ②A、B、Cで評価する。

★★★★	★★★	★★	★
・学習内容以外へ目が向く ・態度化している	・根拠が述べられている	・結果の記述のみ ・学習活動の感想のみ	・無記入 ・ねらいから外れている
A		B	C

【理科(実験の考察の評価)の例】

学習活動 葉の表側より裏側の方が蒸散量が多いことと、葉のつくりとはどんな関係があるのかを調べる。

目標 実験結果(葉の裏側の方が気孔の数が多いことと、葉の裏側からの蒸散量が多いこと)を関連付けて説明することができるか。

★★★★	★★★	★★	★
(★★★★に加え) ・葉の表側には光がたくさん当たるので、光合成をする細胞が多い方が都合がよいのではないか。 ・葉の内部では裏側の方が細胞同士のすき間が広く、蒸散しやすくなっている。	・葉の裏側には○個、裏側には○個の気孔があり、葉の表側より裏側の方が気孔が多いので、蒸散量も多い。	・葉の裏側には○個、裏側には○個の気孔があり、葉の表側より裏側の方が気孔が多い。	・無記入 ・葉の裏側には○個、裏側には○個の気孔があった。
A	B	C	

<生徒のワークシートの記載例>

考察 結果から分かることをまとめてみよう

裏側が気孔の数が多い。くさりの出口が夕日11から木がた
くまらるので蒸散量が夕日にとが分かりました。裏にはなぜ
気孔がたくさんあるのか分かりませんでした。ぼくが考えた夕日では、
表側の方が光合成を多くするのじゃあ、裏側には気孔が裏
側にも多いかと思いました。気孔の数はひとつ、ひとつの葉からう
かがすにたりたりと

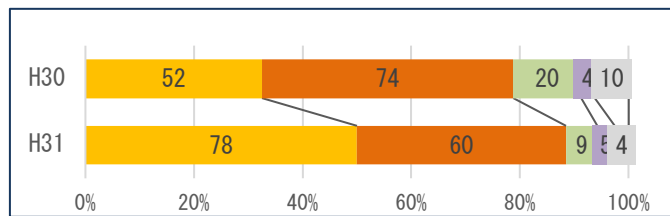
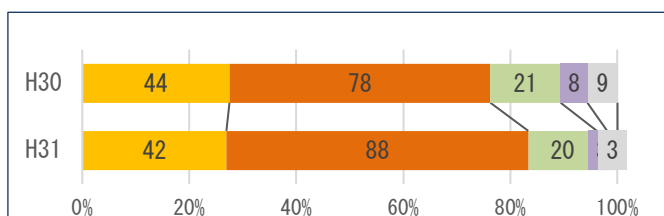


【生徒の変容】平成30・31年度「生徒アンケート調査」から

※現3年生の意思調査の比較(7月比較)

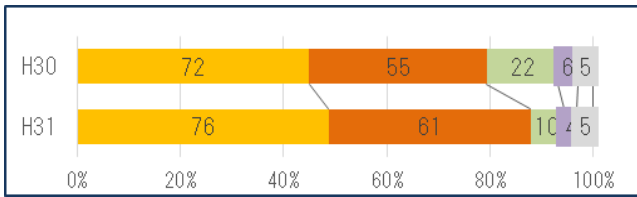
◆ 意見を言うとき、その根拠や理由を明確にしていますか。

◆ 班の話し合いを通して、自分の考えを深めたり、広めたりしていますか。

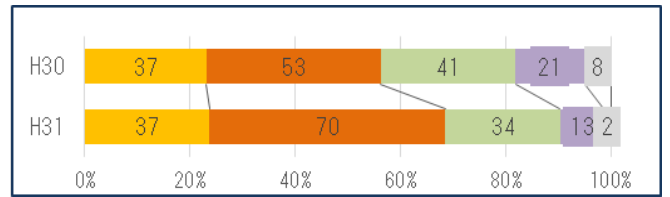


● ちょうど ● だいたいそう ● あまり里もない ● 里もない ● 分からない

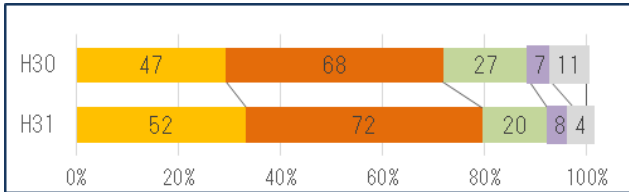
◆ 友達と協力して課題を解決するのは好きですか。(苦にならない)



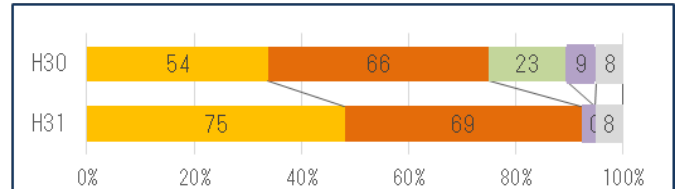
◆ 自分の考えを、他の人に伝えたり、説明したりするのは好きですか。(苦にならない)



◆ 学んだことを振り返ると、自分の考えをしっかりとてますか。

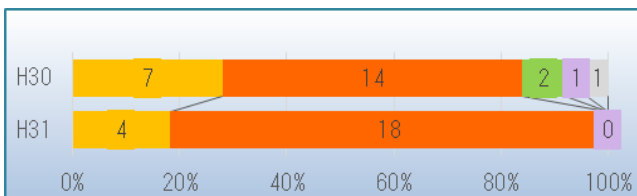


◆ 授業で学んだことを、生活の中で生かしたことがありますか。

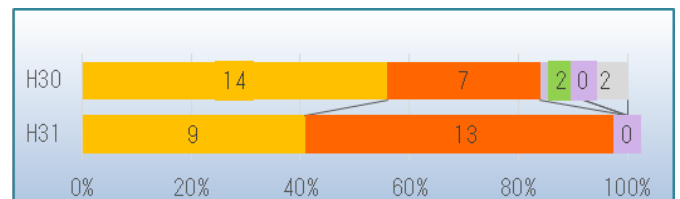


【教員の授業改善の変容】平成 30・31 年度「立川七中授業スタンダード」より

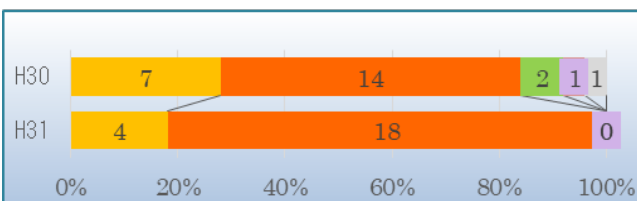
● 単元を通して、学習を見直し振り返る場面を設定している。



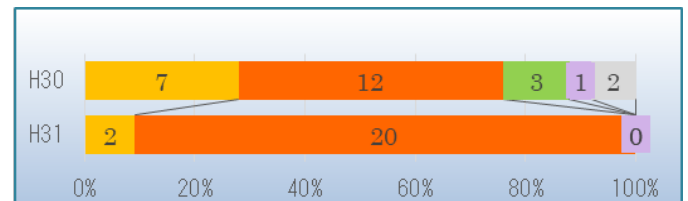
● 単元を通して、生徒が考える時間や場面を設定している。



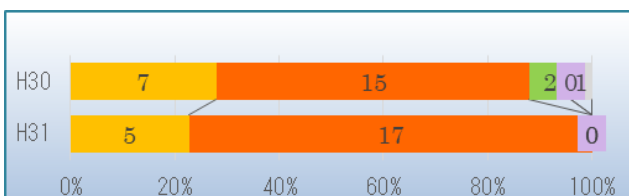
● 単元を通して、対話的な学びを設定し、考えを深めたり広めたりしている。(教師や生徒、資料等)



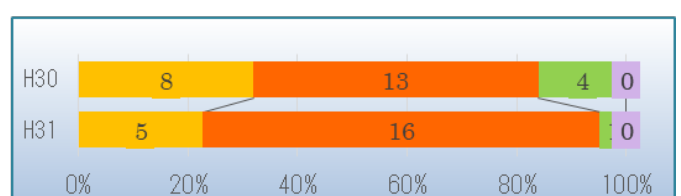
● 単元を通して、学びの深まりをつくる場面を設定している。(他の単元、教科、社会や生活に)



● 単元を通して、自分の考えを表現する場面を設定している。(発表、説明、論述、討論等)



● 単元を通して、習得した知識や技能を活用する場面を設定している。



⇒生徒は、班や友達との対話的な学びによって、自分の考えを広めたり深めたりしながら、相手に根拠を示して説明できるようになった。さらに、学んだことを、生活や社会の中で活用する学びに向かう力が育まれている。

⇒教師は、思考力・判断力・表現力等を育み、深い学びにつながる授業改善が図られている。

【研究の成果と課題】

■ 成 果 ■

- (1) 学習課題に対して、自分の考えをもち、文章で書く、発表する、図やグラフなどを用いて表現するなど、多様な方法で自分の考えを表現できる生徒が見られるようになった。
- (2) ペア学習やグループ討議では、自分や生徒間での対話を生かしながら、意欲的に根拠や理由を示しながら自分の考えを相手に伝えることができる生徒が見られるようになった。
- (3) 教科を通して学んだことを、他の教科、生活、社会の中で生かしていこうという、学びに向かう主体的な態度が育まれるようになった。
- (4) 生徒の資質・能力を育むために、「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善に取り組み、単元や題材等のまとまりの中で授業改善が図られるようになった。
- (5) 研究授業の実践と研究協議会において、授業や生徒の学びを記録した付箋紙をもとに、教科や指導経験などの垣根を越えて討議し、校内が一体となって授業改善に向き合うことができた。

■ 課 題 ■

- (1) 生徒自ら「問い」を立て、その問いに対して自ら答えを出す学習に取り組み、学びの深まりを実感できるよう支援していく。
- (2) 「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価については、どのような指標や規準で評価するのか、評価内容や評価方法について検討していく。
- (3) 生徒が主体的に学習を見通し振り返る場面、対話的な場面、学びの深まりを創るために教える場面と生徒に考えさせる場面をどのように組み立てるかという視点で授業づくりを行う。